

TMRセンター統合に向けて圧縮梱包機の作動を確認 利用農家側からの利便性・品質を評価

(二〇一三年十一月 熊本県八代市)

広酪は中期三か年計画に基づくTMRセンターの統合計画の検討を進めている。去る十二月十四日の第九回理事会では「コンビラップ」を導入した先進事例において、故障が多く修繕費がかさんでいるとの現況情報を得た中で、堅牢性が高い圧縮梱包機(松本システムエンジニアリング(株)製のラッププレスマスタ)を導入選定機種に加えるための検討にあたり、その機器導入先の熊本県酪農業協同組合連合会「八代TMRセンター」と同センターで製造されたTMRを利用する酪農家を視察した。

圧縮梱包TMRの

利用農家を視察

圧縮梱包TMRを利用する古閑牧場を視察した。同牧場は、ご夫婦とご子息の三名で経産牛三十三頭を飼育。果樹(梨)経営との複合経営で、酪農作業の他に梨の剪定や施肥作業に従事され

ている。視察では、実際に梱包されたTMR(五百kg梱包)のラップの開封作業の協力をお願いし、作業効率や開封後の製品品質を確かめ、実際の利用状況等のお話を伺った。牧場主からは「品質も大変良く、扱いも良好」との言葉があった。



(古閑さんの利用状況を聞く役員ら)



(開封したTMR飼料を確認する役員ら)



(八代TMRセンター内の製造ライン。左が圧縮梱包機)



(ラップ状況を確認する役員ら)



(ラップで6面包装された出荷を待つ500kgのTMR製品)

■八代TMRセンター視察

原料の仕込みからラップ作業までの一連の行程を視察し、飼料充填圧縮梱包機や飼料攪拌機等の動作確認、導入時の検討内容等を聞いた。TMRの飼料設計は、基礎配合に加え、飼料用米やWCSのほか、みかん粕や豆腐粕等のエコフィードを使ったコスト抑制が図られていた。

■視察のまとめ

今回の視察から、参加した役員らは、組合員の利便性やTMRの品質向上、コスト面等を考慮する中であって、広略にあつた機器選定を前提に、一月末を期限とする広島県への機器選定期限までに、コンビラップと圧縮梱包機の両面から選定に向けた検討を早急に進めることをまとめた。

○今月の表紙

▼三月三十日、尾道・松江線の三次東JCT・ICから吉田掛合IC間の一般交通開放が行われる予定となった。

▼今回の表紙写真は、口和IC付近から開通間近の路線を撮影した。(アングルは、口和IC側から高野IC側)▼尾道・松江線は、広島県尾道市を起点として、三次市付近で中国自動車道に接続し、さらに中国山地を横断して島根県松江市を終点とする延長約百三十七kmの高速道路である。

▼瀬戸内しまなみ海道(西瀬戸自動車道)と一体となり、山陰・山陽・四国の連携を強化し、沿線地域の社会経済・生活文化の発展に大きく寄与することが期待されている。

▼この道路は、二十六年前の昭和六十二(一九八七)年九月に国土開発幹線自動車道として新規追加されたことに始まる。

▼まもなく開通する三次東JCT・ICから吉田掛合IC間では、既に周辺の県道沿いに道路案内看板も設置されるなど、開通に向けて最後の追い込み工事が行われている。

▼広島県内区間においては、平成二十二年十一月に尾道JCTから世羅IC間が供用開始となっている。

▼平成二十五年度に、吉舎ICから三次東ICの区間が一部供用開始され、全区間の開通は平成二十六年度と予定されている。



▼この路線は、旧日本道路公団により整備されていたが、平成十六年一月から新直轄方式により無料の高速道路として、尾道JCTから三刀屋木次ICの延長百一十一kmを国土交通省が暫定二車線で整備を進めている。

▼尾道・松江線完成に併せてバス運行会社の路線変更もあり、片や地域は便利に、片や地域はバス路線廃止等による人口移動の減少から地域疲弊が課題との声も聞こえてくる。

▼広酪本所の所在地がある三次市は、路線開通を控え三次工業団地への企業誘致、観光事業の展開などによる人口流入に大きな期待を寄せている。

▼広酪にとっても路線開通は集乳業務や購買品の物流に大きなメリットをもたらすものと期待している。

▼庄原市の口和ICで三月十日に開通イベントとして、口和ICから三次東IC区間で「家族で歩こう・サイクリングを楽しもう」等の行事を予定されているようだ。

▼皆様も参加されてみては如何ですか？